

# 授業計画書(シラバス)

教科名	応用造形	曜日 時間	水曜日 9:10～15:50	担当者名	本郷 仁
-----	------	----------	-------------------	------	------

	前期指導案		後期指導案	
(年間 26回 授業日)	4月	17 24	10月	2 16 23 30
	5月	8 15 22 29	11月	6 13 20 27
	6月	5 12 26	12月	4 11 18
	7月	3 10	1月	15 22
	9月	11 18	2月	
方授 法業	( 講義 ・ 実技 )		( 講義 ・ 実技 )	
授 業 内 容	<p>《大阪産業大学との連携授業》 大阪産業大学建築・環境デザイン学科笹岡研究室の学生と共同で、ガラスプロダクトのデザインと実制作について学ぶ。 4～6月：毎週水曜日、Skypeによる合同授業 6月中旬：来所予定。試作品を基に検討 7月中旬：プロトタイプ完成</p> <p>《アイデア展開》 各自の作品を展開するために、お互いの発想や表現方法について検証する。</p>		<p>《ガラス制作者として必要な、素材や設備機材に関する知識を、講義と制作を通して学ぶ》 ガラスの物理的特性、溶解炉・電気炉の仕組み、ガラスの製法、歴史から見たガラス工芸・美術など。</p> <p>《素材研究実習、クイックプロジェクト》 ガラス素材の特性を理解し、新たな発想のきっかけを見つけるために、ガラスを用いた実験的制作を行う。毎週テーマを設け、ガラス以外の素材を用いた小作品の制作を行い、素材の特性と視覚表現の基礎を学ぶ。</p>	
到達 目標	他者との協働(グループワーク)と個々の作品の検証を通して、柔軟な発想力を養い、より個性的な表現の確立を目指す。		将来を見据えた制作の方向性の模索と、制作発表に関する実践的な知識経験の獲得。	
成 績 評 価	各課題への取り組みの姿勢と。作品を実現するための具体的かつ計画的な制作。提出課題作品の相対的な質と量。		各課題への取り組みの姿勢と。作品を実現するための具体的かつ計画的な制作。提出課題作品の相対的な質と量。	
事 留 意 項	大阪産業大学との打ち合わせ(共通認識の確認)		本クラス課題と各人の研究制作の時間的バランス。	

# 学習指導案

教科名	キルンワークI	曜日 時間	水曜日 9:10～15:50	担当者名	松藤孝一
-----	---------	----------	-------------------	------	------

		前期指導案		後期指導案	
（年間 27回 授業日）	4月	17	24	10月	2 9 16 23 30
	5月	8	15	11月	6 13 20 27
	6月	5	12 19 26	12月	4 11 18
	7月	3	10 17	1月	15 22 29
	9月	4		2月	
方授 法業	( 講義 ・ <b>実技</b> )			( 講義 ・ <b>実技</b> )	
授 業 内 容	<p>キャストイング、パート・ド・ベール、フュージング、スランピングといった基本的なキルンワークの技術を修得しながら、素材であるガラスの特性にも理解度を深めていく。</p> <p>スケッチブックは、アイデアを整理そして発展させていく上で有効であり、その記録が担当教員とのコミュニケーションに役立つ道具として活用される。同じく、常に制作データ(ガラスの配合や電気炉の温度スケジュールなど)をスケッチブックに記録させる。</p> <p>学生にとって初めてのキルンワークの授業ということで、学生に対して分かりやすい指導を心がける。</p>			<p>基本的なキルンワークの技術のもと、更にレベルアップした造形表現を探し求める。前期キャストイングの応用として、ロスト・ワックスの技法を学び、緻密な造形を習得する。</p> <p>また、引き型やプレス型などの技術を学ぶことにより、自分の求めるかたちを作品に取り入れられるようにする。</p> <p>授業を通して、学生が、素材や技法、またそのプロセスをトータルで考え始める機会にする。そして、自分のオリジナリティーを求めさせる。</p> <p>2年次に問題なくキルンワークの制作が自分で行えるように、年間を通してキルンワークの基礎をしっかりと身に付けさせる。</p>	
到達 目標	この授業では、技術の修得が目標である。			この授業では、技術の修得が目標である。	
成績 基準 評価	成績評価の基準は以下の通りである。積極的な授業への参加／意欲的な学習態度／課題の完成度／提出期限の厳守／授業の目標水準の到達／個人の成長度／出席状況など。			成績評価の基準は以下の通りである。積極的な授業への参加／意欲的な学習態度／課題の完成度／提出期限の厳守／授業の目標水準の到達／個人の成長度／出席状況など。	
留意 事項	作品制作に先立つアイデアスケッチや研究で収集した資料など全て作品と同様に評価の対象となるので手を抜かないこと。常に自分のテーブルとその周りを責任をもって管理し、石膏室やワックス室等を使用した後はきちんと清掃を行うこと。			作品制作に先立つアイデアスケッチや研究で収集した資料など全て作品と同様に評価の対象となるので手を抜かないこと。常に自分のテーブルとその周りを責任をもって管理し、石膏室やワックス室等を使用した後はきちんと清掃を行うこと。	